

1992. 1  
第 8 号

# 博物館だより

大津市歴史博物館

## 宗家記録と朝鮮通信使展

—江戸時代の日朝交流— を開催



### 正徳元年（1711）朝鮮之國信使、登城行列図（韓国国史編さん委員会蔵）

江戸時代、正式国交をもっていた朝鮮は、日本の将軍の代替わりごとにこれを祝う使節を送ってきた。これは、その大行列を描いた長大な絵巻の一部で、使節の代表者である正史を描いたものである。

歴史博物館では、平成四年二月十一日（火）から十六日（日）まで、大韓民国国史編纂委員会・朝日新聞社との共催で、「宗家記録と朝鮮通信使展—江戸時代の日朝交流—」を開催します。

鎖国政策をとっていた江戸時代において、徳川幕府が唯一、対等・正式の国交をもっていた国は朝鮮でした。その外交の窓口となっていたのが、対馬の宗家でした。そして、同家の家臣として日朝外交に活躍したのが、近江出身の儒者・雨森芳洲だったのでした。

江戸時代の日朝善隣外交を示す貴重な資料である宗家記録は、宗家から朝鮮総督府の朝鮮史編修会に移管され、第二次世界大戦後は韓国に引き継がれました。

本展は、この韓国秘蔵の宗家記録約二万九千点のなかから逸品をよりすぐって初公開し、これに日本国内の朝鮮通信使関係資料を加えて、日朝友好の時代を明らかにしようとするものです。出品資料は約一五〇点。外交記録のほか、一五世紀李朝人の日本見聞記「海東諸国記」や雨森芳洲著の通訳養成書「詞稽古之者仕立記録」、正徳の通信使を描いた四十頁に及ぶ行列図など興味深い内容となっています。

観覧料は、無料。また、会期中は無休です。ぜひこの機会に日朝交流の貴重な資料をご観覧ください。

なお、二月十一日（火）午後一時から「江戸時代と朝鮮通信使」のテーマで、講演会も開催します。講演は、「対馬とソウル—宗家文書の意義」泉澄一・関西大学教授、「通信使と雨森芳洲」上田正昭・大阪女子大学学長、「通信使と江戸時代の文人」李元植・近畿大学教授、「朝鮮通信使と大阪・京都」仲尾宏・京都芸術短期大学教授を予定しています。

## 石山寺の仏像調査実施

滋賀県下では各市町村、仏像彫刻の実態調査が進行しているが、大津市宮社寺の数の多さもあって、調査が遅れていた。当館では開館以来この調査に携わってきたが、平成三年三月と七月に、市内屈指の古寺である石山寺の未指定彫刻の調査を実施したところ、幾つかの発見があった。その成果の一部をここに紹介したい。

調査した作品は計百八件。制作された時代別に内訳をあげれば、平安時代三件、鎌倉時代四件、南北朝時代二件、室町時代二件、桃山時代一件、江戸時代四六件、その他一件と六六三。

まず本堂では、土塔の厨子の両側に二十八部衆とよばれてきた三十四尊の彫像がまつられているが、今回の調査の結果、法華經普門品に説かれる観音菩薩の三十三応現身（観音は六臂とを救うために三十三の姿に変身するという）を表現したものがあった。銘文等

あり、文化財として非常に貴重である。

豊浄殿（収蔵庫）では、もと幻住庵の本尊という寺伝のある阿弥陀如来坐像（写真1）が目をついた。一木造の像で、肉髻という頭頂の盛り上がりや形態や目鼻立ちの表現などから、平安時代の中頃までさかのぼる古像と思われる。

豊浄殿にはこのほか、同じく平安中期の作と思われる地藏菩薩立像も安置されている。厳しい表情をもち、小像ではあるが迫力のある像である。

玉眼をはめた等身大の阿弥陀如来坐像も、平安後期の様式を残した鎌倉時代の作品かと思われる。

これとほぼ近い時期の作例に、寺内の塔頭法輪院持仏堂の如意輪観音半跏像があげられる。本尊を写したと考えられる二臂（手が二本）の像で、隙のない優美な造形が魅力的である。

仮面も幾つか見出された。中世にさかのぼる鬼面が二面、桃山時代の銘文のある鬼面（写真2）が一面あり、後者は「越州帰山伝心」なる作者と天正九年（一五七九）の制作年が判明する点、興味深い。

また、東大門に安置される二軀の金剛力士像（写真3）も特筆にあたいしよう。鎌倉時代後期の像で、なかなかの力作である。素通りしがちな門の両脇にまつられていたため、これまであまり注目されなかったものであるが、筋肉や裳のひだなどは写実的な表現がなされ、しかも誇張に走らずよくまとまっている。

石山寺は奈良時代の創建であるが、平安後期に大火にあい、本堂と本尊を失った。このとき焼けた像は塑像（塑土を材料として造られた像）であった。近年までその断片が厨子のなかにあったといわれ、これは現在別保存されている。なにぶん像のどの部分にあたる



写真3 金剛力士立像（阿形）



写真2 鬼面（天正九年銘）

かさえわからない小さな断片となっているため、もとのかたちを想像するのは困難だが、衣のひだの表現や彩色のあとなどからみて、仏像の断片であったことは確かである。ただし、本尊が木彫に改変された後も両脇侍は塑像であったから、これらの断片が奈良時代創建期の本尊の一部にあたるか否かについては、今後の研究の課題となるであろう。

ここに紹介した以外にも注目すべき作品は少なくなく、石山寺の歴史の深さを再認識した次第である。

## 「街道・宿場・旅」展報告

平成三年十一月二十四日、開館一周年記念特別展として開催しました。「旅人からのメッセージ―街道・宿場・旅」展は、おかげをもちまして無事終幕を迎えました。会期は十月十九日から三十二日間で、総入場者数は八、七〇七名にのほりました。

この展覧会では、近江の歴史の特徴である「街道」に焦点をあて、街道や旅に関する絵画や庶民の旅の携帯品など約二〇〇点を展示したほか、映像コーナーや体験コーナーも設けました。特に体験コーナーでは、



江戸時代の旅の苦労を知ってもらおうと、駕籠や人足荷物をかっいでもらいました。会期中、家族連れや若者のグループに人気があり、主催者側としては喜んでいました。またコンパクトに工夫された旅の携帯品などにも興味を持たれた方が多かったです。博物館では今年も積極的に企画展を開催していきますので、よろしく願います。

## 収蔵品紹介⑦

### 雄琴出口古墳出土の武器

鉄製直刀 一振・鉄製剣 一本  
古墳時代（五世紀）

出口古墳は、大津市雄琴三丁目字出口六四三番地、同七八二番地に所在し、小字出口に所在することから「出口古墳」と名付けられました。この古墳は、J R西日本湖西線雄琴駅の東北方約四〇〇mの通称寺山の頂部に位置しており、標高約一三七mの寺山と雄琴集落を貫く西近江路との高さを比べるとその差は約三五mも測る比較的高所に築かれています。古墳のある寺山は滋賀丘陵の東部にあり、南方の雄琴川、北方の御呂戸川によって区画された入り組んだ丘陵地の東端にあたり、周囲の丘陵地よりも際立って高いものの、琵琶湖方面の眺望はよく見通せませんが、背後の丘陵地は多くを望めない状況を呈しています。

発見当時、前方後円墳とみられていましたが、その後の発掘調査の結果、二基の古墳が築造されていることが判りました。寺山西側の高い場所に一号墳、東側のやや下った場所に二号墳がそれぞれ立地しています。

一号墳は、直径約二〇m、同高さ二・五mの円墳で、墳丘の外部施設には墓石が施されていますが墳輪は確認されませんでした。内部構造は、東北―南西主軸をもつ組合式木棺で長さ二・一m、幅〇・八mを測り、朱の痕跡が認められました。副葬品には、鉄鍔、碧玉製管玉（直

径四mm、長さ二・二cm）がみられました。二号墳は、直径約一五m、同高さ一・五mの円墳で、墳丘の外部施設は認められませんでした。内部構造には二つの主体部があり、東方に南北主軸をもつ長さ五・五五m、幅〇・七五mの割竹形木棺、西方には南北主軸をもつ長さ二・二m、幅〇・八mの組合式木棺が検出されました。副葬品は、第一主体部（東方）から鉄製直刀一振と刀子一点、第二主体部（西方）からは鉄製剣一本と刀子一点が出土しました。鉄製直刀は全長七七・五cm、刃部長六五・五cm、幅三・三cm、背幅〇・七cm、茎部長一二cm、幅二・一cm、厚さ〇・四五cmを測り、鉄製剣は全長六四・五cm、身部長五五・五cm、身幅三・五cm、茎部幅二cmを計測でき、目釘穴二個が認められます。

古墳の築造年代は、古墳時代中期頃すなわち五世紀中頃と推定され、一号墳が二号墳よりも先行して築かれた時間的な差は僅かであると思われま



# 一月・二月の土曜講座

歴史博物館の「土曜講座」の一月～二月の日程は、次のとおりです。

### ◇特別講座「やきものの見方」

(日時) 二月二十九日、三月七日

午後二時～三時三〇分

(講師) 桑山俊道氏(滋賀県立近代美術館学芸員)

(内容) 日本・近江のやきものである信楽焼・湖東焼資料を中心としてその見方を解説します。

(申込〆切) 二月十五日(土)

### ◇「考古資料の見方」

(日時) 一月十八日、同二十五日、二月一日

午後二時～三時三〇分

(講師) 須崎雪博(当館学芸員)

(内容) 調査などで出土した考古資料から、どのような情報が読み取れるのかスライドを使って考えます。

### ◇「古文書にみる朝鮮通信使」

(日時) 二月十五日、同二十二日

午後二時～三時三〇分

(講師) 植爪修(当館学芸員)

(内容) 江戸幕府が唯一、正式な外交関係をもった隣国・朝鮮との交流の歴史を示す古文書を読みます。

(申込〆切) 二月八日(土)

### ◇希望の方は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入し

大津市歴史博物館へお申込みください。定員はどの講座も一〇〇名で、多数の場合は抽選します。なお、「考古資料の見方」は申込を〆切りしました。

## 博物館日記抄

平成3年9月  
平成3年11月

9月21日 土曜講座(古文書を読むII)

25日 収藏品収集審査会を開く

10月1日 ふるさと大津歴史文庫No.8「大津の人物」四千部を発刊

2日 館内会議、絵馬展反省会、富山県郷土史会

3日 来館

3日 中国社会科学研究院考古研究所常青・劉振東氏・作家吉村昭氏来館

5日 土曜講座(古文書を読むII)

9日 八所神社祭祀取材

10日 韓国亀尾市友好テニス交流団、立命館大学博物館課程一行来館

12日 土曜特別講座「大織冠の復元について」(山口善造氏、参加者一三五名)

16日 新潟市・清水市各市議会来館

19日 開館一周年記念特別展「街道・宿場・旅」旅人からのメッセージ」開場式および公開、土曜講座(わらじを編む)

20日 大手前女子大学教授塩野芳夫氏一行、京都薬科大学理事長川端五兵衛氏来館

21日 加藤優・小林達朗両氏(文化庁美術工芸課)

23日 宮本忠雄氏(県教委) 来館

23日 国立国会図書館長加藤木理勝氏、大津東ロータリークラブ一行来館

24日 静岡県東部収入役会一行、東京吉祥女子高校大島義雄氏一行、山田良定氏(滋賀大学) 来館

26日 特別記念講演会「日本の街道と近江」(見玉幸多学習院大学名誉教授 開く。若林喜三郎氏(大阪天満宮史料室長) 来館)

30日 寺尾宏二氏(元京都産業大学教授)、NHK大津放送局長今泉和明氏ら来館

11月1日 小野幹雄大阪高等裁判所長官、大塚保子、西村恭子の両氏(セゾン美術館) 来館

2日 土曜講座(特別展列品解説)

4日 朴永錫大韓民国国史編纂委員長、大塚剛氏(外務省)、魯安平中国吉林省局長来館

8日 館内会議

9日 土曜講座(仏像の見方II)

12日 全国市議会議長・副議長一行来館

13日 嘉田由紀子氏(琵琶湖研究所) 来館

14日 大阪高等検察庁検事長川島興氏ら大阪高等検察庁管内検事正来館

16日 土曜講座(仏像の見方II)

19日 郵政貯金月間記念植樹

22日 下坂守氏(京都国立博物館) 来館

23日 特別講演会「近江の道とその文化」(本館木村至宏館長)

24日 特別展閉幕(観覧者八、七〇七人)

30日 県内中学校長会一行来館、土曜講座(正月行事について)

博物館だより 第8号

発行日 平成四年一月十六日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市歴史博物館

電話(〇七五)二二二〇〇代